

学校教育目標	社会を生き抜く自立した児童・生徒 ～やりぬく姿はかっこいいGRIT～ ○自ら考え、節度ある正しい行動のできる生徒(規律) ○将来に向かって希望や目標をもって前進する生徒(感動) ○思いやりの心をもって共感し、尊敬しあえる生徒(敬愛)					総合評価
運営方針	○基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を身につけさせると共に、主体的に学ぶ意欲と態度を育てる。 ○人権が尊重される社会や地域を築く人間の育成を目指すとともに、生命に対する畏敬の念をもって、互いに信頼と協力を深める。 ○自然や伝統文化を大切に、美しいもの・崇高なものに感動する豊かな情操を養う。 ○規律ある生活を重んじるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせ、たゆみなく自らを高めようとする意欲と実践力を養う。 ○健康・安全に留意し、活力ある生活ができる逞しい心身の育成に努める。 ○職場体験学習や修学旅行をはじめとする諸活動や行事を通じてキャリア教育を推進し、キャリアパスポートの充実を図る。 ○いじめを許さない態度を育てると共に、未然防止、早期発見、組織的な対応に努める。					
令和4年度の成果と課題 (○成果 ●課題)	本年度の重点目標	具体的目標				
【学習指導】 ○コロナ禍の中、「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業・研究協議を2回行うことができた。 ●学力に課題があり、家庭学習がなかなか定着しない生徒に対する取組をより以上に進めていく必要がある。 【生徒指導・安全指導】 ○SCとのカウンセリングにより生徒の不安等を解消できた。ケース会議を随時行う事により、SCからの確かなアドバイスをもらい、情報を共有することができた。 ●生徒の主体的な活動や挨拶運動がより活発になるための手立てを、生徒会を中心に考えていく必要がある。 【道徳指導・特別活動】 ○ローテーション方式の道徳の授業を行うことで、さまざまな教師の指導にふれる機会を持つことができた。 ○生徒の実態や社会的な問題も踏まえ、授業内容を考え、生徒が自ら振り返り、課題意識や目標を持てるようにした。 ●「ふるさと学習」については、今後も具体的なテーマを設定して実施する必要がある。 ●業務や分掌を見直す中で、働き方改革を進めていかなければならない。	○確かな学力 ー 基盤的学力の習得ー	学校行事等を精選したり、工夫したりすることによって、授業時間数を増やす。わかりやすい授業を実践する。また、学力定着のため、家庭学習の習慣を定着させる。 「読解力の向上」をめざし、小学校との合同の職員研修を進め、各教科の指導力の向上に努める。	3			
○豊かな心 ー 対人関係構築力の育成ー	地域行事に積極的に参加したり、地域の人々との交流を深めたりする中で地域の教育力を活用しながら、ふるさとを愛する生徒を育てる。 「あいさつができる児童・生徒」を育てるとともに、対人関係構築力を育成する。					
○健やかな体・安全 ー 体力の向上と健康意識の醸成ー	生徒の規範意識を高めるとともに、よりよい生活習慣が身につくよう取り組む。 危機管理に関する研修の充実を図る。また、関係機関との連携を強化し、SC・SSWの有効な活用を進めていく。					
評価項目 具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (5段階評定)		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導 確かな学力を身につけ、進路を切り開くためにやり抜く力を育てる。 小中一貫教育を進め、小中間の連携強化のための合同研修や共通の目標を設定する。	アクティブ・ラーニング(主体的、対話的で深い学習)を各教科で毎時間取り組むことを目標とし、ICTを積極的に活用していく。 基礎学力の定着を図るために、セレクトタイムを実施し、全校体制で取り組む。また、タブレットの活用により、学習意欲を向上させ、家庭学習の推進につなげる。 特別支援教育では、個別支援の充実を図っていく。また、開設されている通級指導教室の充実を図っていく。 「読解力の育成」を小中間共通の教育課題であるとし、小中併せて年間、2回、研究授業・協議を行う。また、総合の時間に、「読解タイム」を継続し、読解力向上を図る。 小中合同で英語教育の強化に取り組み英検受験を奨励する。また、小中間の授業交流や学校行事の交流、また体験入学の充実を図る。	4 4 4 4 4	4.0 4.0 4.0 4.0 4.0	タブレットの導入4年目で、各教科でICT機器を利用した授業に慣れてきた。タブレットを活用した宿題も提示できた。しかし、「先生は授業でICT機器を積極的に活用していますか」の回答で「あまりそう思わない」と答えた生徒が30%もいた。0%に近づける。 タブレットを使い「すららドリル」を全校体制で取り組んだ。長期休業中も課題として取り組ませた。「平日、家庭学習をほとんどしない」と回答した生徒は18%であった。0%に近づけなければならない。 個に応じた支援や授業について、計画的に実行し、全職員がいていねいに関わることができた。通級指導教室においても4年目ということで体制を整えながら適切に個別の支援ができた。 読解力向上の小中合同研修を4回行い、その中で研究授業・協議を行い、研修を深めることができた。読解力向上のための授業プランを各教科で作成し、授業力向上に努めた。「読解タイム」では昨年引き続き新聞を用いて、記事の内容を読み取り要約し、更に自分の意見をもつ取組を行った。次年度も行う。 本校を会場とし、小中合同で英検を行って4年目で、延べ31人が受験し、合格率は97%だった。受験者数や合格率を増やすように、一層英語に興味・関心を持たせる取組を行う。体験入学は小中間で詳細な打合せをし、行うことができた。	より以上に意識し、各教科でタブレット等のICT機器を積極的に活用した授業を行う。長期休業中は全学年で「すらら」の課題を出していく。年度当初、個に応じた支援や授業の体制をより以上に整える。 今年度と同様に、年度当初に小中合同研修等を計画し、目標を明確にし取り組む。「読解タイム」の充実を目指す。 今年度と同様に、年度当初に小中合同研修等を行う。	○今後も読解力の向上を進めると共に、タブレット端末やAIDドリルを活用し、基礎学力の底上げを行ってほしい。 ○タブレットの使用で、生徒達の学習意欲が高まり、学力向上につながればと期待している。 ○ICTは非常に大切だが、自分の言葉で表現する方法も必要である。 ○英検＝英語の学習、これからの世界に通じる上で必須で、これからも継続してほしい。 ○英検に関しては、小中を通して受験の機会が増えることをとてもありがたく思う。
生徒指導・安全指導 生徒が安心して安全な学校生活を送ることができるようにする。 体力の向上と健康意識の醸成に努める。	職員の危機管理意識を高め、校内での事故発生時の動きを研修などの機会を設け、毎学期確認する。今年度、地震に伴う火災を想定した避難訓練を実施する。 生徒の規範意識を高める取り組みとして時間、校則を守るという意識を持たせる。また生徒たちが過ごしやすいように校則の見直しを図る。 体育の授業を通じて多様な運動技能を身につけさせていく。保健の授業や保健だよりで生活習慣の改善について伝える。 SCやSSWの有効な活用を進め、個別のケース会議などを随時取り入れ、職員間で共有する。	4 4 3 4	4.0 3.8 3.5	危機管理マニュアルを新しく作成し、職員全体で共通理解を図ることができた。地震に伴う火災を想定した避難訓練と不審者対応の研修を実施することができた。また教員も生徒も定着とまではいかないで繰り返し行っていく。 LGBTQに配慮した校則に改正することができてきている。生徒が落ち着いた学校生活を送り重大な事故は発生しなかった。 歯磨きは、感染症予防のため実施できなかった。保健便りに歯磨きの仕方を掲載し、意識付けさせた。歯科検診の結果からは歯の未治療が多く見られ今後早急な改善の必要がある。長距離走をふりかえってみると粘り強く頑張ることができた生徒とそうでない生徒との二極化が進んでいる。 SCとの連携により生徒の不安等を解消できているように思う。ケース会議を随時行う事によりSCからの確かなアドバイスをもらうことができた。情報共有につながっている。	危機管理についての研修をいれていく。次年度は危機管理という点であらゆる対応の訓練を計画し必ず実施していかなければならない。 子ども達に、保健便りや保健体育の授業を通して繰り返し健康意識を高めるような指導を行っていく。また、心の健康についても関係機関とともに子ども一人一人に寄り添った指導を行っていく。 子ども達に、保健便りや保健体育の授業を通して繰り返し健康意識を高めるような指導を行っていく。また、心の健康についても関係機関とともに子ども一人一人に寄り添った指導を行っていく。	○家、学校を含め生活する上で、体力の向上や健やかな心を維持することが大事となる。子どもの実態把握に努め寄り添った指導を行ってほしい。 ○SCの利用が多いと聞いて、驚いた。それだけ不安を抱いた生徒が多数いるという現状が少しでも改善できればと願っている。 ○細やかな取組に脱帽している。子ども達の個性を大切にしていることに感謝している。 ○校則等の改正はいいと思う。社会の変化に柔軟に対応してほしい。
特別活動・道徳教育 集団や社会の形成者として他者や地域とつながり、共に自らも成長していく態度を育てる。 特別の教科 道徳の授業の充実と共に、実践できる生徒を育てる。	新型コロナウイルス感染症の感染対策が緩和され、より学校行事を活発にすることが予想される中、生徒発信で活動する機会を通して生徒の主体性を育てる。 牧野小学校と合同で行う清掃活動を通して、地域の環境美化に貢献する。また、福祉体験や職業体験等を通して他者や地域とのつながりを持たせる。 特別の教科 道徳において、生徒の心に響く授業の創造を目指し、各学年で教材の選定や指導方法等について検討する。 体験活動の充実を図るとともに、体験活動と道徳の時間とを関連づけた指導を進める。	4 4 4 4	4.0 4.0 4.0	合唱コンクールは牧野小学校5年生の合唱や保護者の観覧など、従来の形で開催することができた。文化委員の生徒達が役割を分担し、予定通り行うことができた。学校全体で準備から片付けまで計画的に行うことができた。体育大会については種目も拡大し、委員会ごとに責任を持って準備、片付けができていた。 牧野小学校と合同で行う清掃活動も無事行うことができた。職場体験やまきの苑訪問など昨年度より地域とのつながりが増えた。「ふるさと学習」に関しては、校外学習(ラフティング体験)の事前学習として、ふるさと(五條・吉野川)について調べ学習を行った。 生徒アンケートより肯定的回答は「自分の考えを深めることができたか」において76%、「友達の見聞や話し合いから新しい発見や気づきがあったか」において75%だった。生徒の多くは道徳的価値を見いだしている一方で、否定的回答だった生徒もいることに目を向けていきたい。 福祉体験学習や校外学習、ゲストティーチャー(LGBTQ)等を通して、自らを振り返り、道徳的価値について考えた。体験で学んだことを日常生活に活かすことができるように、今後の道徳の授業でさらに深めて考えさせたい。	学校行事はもちろんだが、地域とのつながりの中で前もって計画的に生徒達に考える時間を与えたい。また、保護者・生徒アンケートで70%以上の生徒が学校行事に積極的に取り組んでいると回答している。100%をめざす。 引き続き生徒の実態を踏まえて授業内容を考え、自らを振り返り、課題や目標を持てるようにする。教師が現状の課題について共通意識をもって生徒の指導にあたる。 ○各個人が自立し、目標を定め行動ができるように指導していき、社会を生き抜く力をつけさせてほしい。 ○「ふるさと学習」により、五條の魅力をもっと伝えて、若い人の流出を防ぎたいと思う。 ○合唱コンクールや体育大会を拝見したが、生徒達が協力しあい熱心に取り組んでいるを感じられ、大変素晴らしいかと思う。	
働き方改革 個々の超過勤務時間を昨年度よりも少なくする。	・働き方改革・業務改善の方法等について研修する。 ・月に1回、一斉退勤日を設ける。	2	未だ部活動が、教員の働き方改革に一定の負担になっているのは変わらないが、地域移行に向けて整備が進むことで、少なからず軽減されていくはずである。それとともに、留守番電話等の設置も視野に入れ、教育委員会にも予算要求していきたい。	校務分掌を見直し、負担の偏りを検証するとともに、退勤時間を意識した働き方考える。		
次年度への成果課題と	【成果】 ○「読解力の向上」をテーマに、小中合同研修を3回、研究授業・研究協議を2回行うことができた。初めて指導案検討も小中合同で行うことができた。 ○体験入学を詳細な打合せをして行うことができた。 ○「すららドリル」導入もあり、タブレットを使った授業を昨年度より進めることができた。 ○支援の必要な生徒について、小中が情報交換を密にしながら進めることができた。 ○月1度の専門委員会を行い、生徒発信で活動する機会ができ、主体性が育った。 ○危機管理マニュアルを新しく作成し、職員全体で共通理解を図ることができた。 【課題】 ●学力に課題があり、家庭学習がなかなか定着しない生徒に対する取組をより一層進めていく必要がある。 ●「すららドリル」を今年以上に活用し、学習意欲の向上に努めていく。 ●危機管理という点で、あらゆる対応の訓練を計画し実行していかなければならない。教師や生徒も繰り返し訓練を行い、定着を図る。 ●地域を愛する子どもの育成に努めていきたい。 ●業務や分掌を見直す中で、働き方改革を進めていかなければならない。 ●具体的方策の部分には、アンケート結果を踏まえた数値目標を設定していく。					